

# KAVC CINEMA

## 「ルイ 14 世の死」

時空を超える異才、アルベルト・セラ 監督作品が描く  
偉大なる“太陽王”の豪奢で陳腐な死。

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、当センターのご利用および企画運営にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この度、KAVC CINEMA にて「ルイ 14 世の死」を上映する運びとなりました。

風車が出てこないドン・キホーテ物語『騎士の名誉』（2006 カンヌ国際映画祭監督週間）やカサノヴァとドラキュラが会う『私の死の物語』（2013 ロカルノ国際映画祭グランプリ）などで世界を呆然とさせてきたカタルーニャ出身のアルベルト・セラ監督は、古典や歴史上の著名な人物を題材にしながら、躊躇ない現代性で、誰も見たことのない映画を創造しつづけています。その才能は映画のみならず、戯曲の執筆、舞台の演出、映像によるインスタレーション、パフォーマンスなども手掛け、ヨーロッパで「21 世紀の前衛」と称される異才監督として注目を集めています。セラ監督の長編劇映画 4 作目にあたる本作の題材は、“太陽王”と呼ばれ、豪奢を尽くしてヴェルサイユ宮殿をつくったこのフランスの王、ルイ 14 世です。宮廷の生活をつぶさに記録したサン＝シモン公の「回想録」と廷臣であったダンジョーが書いた「覚え書、別名ルイ 14 世宮廷日誌」をインスピレーションの源とし、死にゆく王とその周りに集まる宮廷、教会のもの、大臣たちと会う 2 週間を仔細に描きました。本作でセラ監督は、劇的スペクタクルを持ったフランスの王の死ではなく、死に向かう一人の人間の真実の瞬間としてのルイ 14 世を独創的視点で作りました。

つきましては、本作品をぜひ貴社媒体にてご紹介頂きたく、ご掲載のご検討を頂きますようお願い申し上げます。何卒宜しくお願い致します。

敬具

あらすじ：ルイ 14 世の苦しみは 1715 年 8 月 9 日に始まり、9 月 1 日に終わった。その死は、72 年に及ぶ、フランスの歴史において最も長い治世の終わりを意味した。代々の医師による公式記録には、ルイ 14 世の健康は不安定で何度も死にかけた事があると明らかにしている。5 歳の頃には梅毒によって、35 歳では悪性の発熱によって、45 歳では瘰（ろう）によって、70 歳では壊疽を伴う糖尿病の合併症によって。1715 年 8 月、ルイ 14 世はまもなく 77 歳となろうとしていた。そしてその体には、心不整脈から引き起こされた左脚の塞栓症によって壊疽がはじまろうとしていた。

「ルイ 14 世の死」

(2016 年 / フランス、ポルトガル、スペイン / 115 分)

配給：ムヴィオラ

監督：アルベルト・セラ

出演：ジャン＝ピエール・レオ、パトリック・ダスマサオ、マルク・スジーニ、イレーヌ・シルヴァーニ

上映期間：7.14(土) - 7.27(金)※火休

料金：一般1700円、学生1400円、シニア1100円

※かぶっクラブ会員割引、障がい者割引適用あり



©CAPRICCI FILMS, ROSA FILMES, ANDERCRAUN FILMS, BOBI LUX 2016

会場・お問合せ：神戸アートビレッジセンター（担当 大泉）

〒652-0811 神戸市兵庫区新開地 5-3-14 TEL 078-512-5500 FAX 078-512-5356